

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100343		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	あじさいの家		
所在地	秋田市山王沼田町4-11		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田市の中心部に位置するグループホームで駅や公共機関が近隣にある都会的な環境の中で生活しています。入居者様の生活歴を尊重し、個々の生活のペースを大切に、ゆったりとした雰囲気のグループホームです。季節にあわせた食事や行事を取り入れ地域と触れ合いながら街の一員として過ごしています。また、同法人の医療機関と連携をとりながら、充実した医療ケアや機能訓練を実施し、安心して生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣との軒が近く、街中で暮らしているという感覚を持ちながら過ごすことができる。法人内には各種の事業所や医療機関があることから、利用者の心身状態に応じて途切れない支援が期待できるため、職員も安心して利用者に関わることができ、対応にもゆとりが感じられる。また、週2回は法人内のデイケアに参加しており、外に出る機会が確保できると共に専門的なケアも受けられることも大きな特徴であり、利用者の暮らしを豊かにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の前、トイレ、スタッフルームなどいつでも理念が確認できるように、常に意識して働けるようにしている。	短く端的に大切なことが掲げられている理念は、皆で意見を出し合って考えたものであり、ミーティング時などに確認し合い常に意識され、現場で生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園を利用し花見をしたり、散歩するなどし、日常的に挨拶ができる関係作りをしている。	地域の一員として、近隣の方々と挨拶しあえる関係ができており、民生委員や元町内会長が折に触れ声をかけてくれたり、アドバイスしてくれたりすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を利用し、町内会長さんから町内会に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域包括支援センターのスタッフ、ご家族に参加して頂き意見交換を行いアドバイスをもとにサービスの改善や向上に努めている。	情報の提供が主だが、その時々地域の話題や、災害対策などについて意見交換もなされ、運営に反映されている。家族から具体的な要望が出され対応したこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターの職員に参加してもらい事業所の実績や取り組みを報告し情報交換をしている。	地域包括支援センターの職員とは運営推進会議を通じ情報の交換や協力関係ができています。日常的には法人内で各種の相談に応じてもらっており、包括支援センター側から情報を求められる場面もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを配置するなどし日中は施錠せず開放している。また身体拘束適正化委員会の開催や研修・勉強会などに参加し身体拘束について理解を深めている。	事業所や法人レベルでの研修もあり、身体拘束について理解を深め、日常的に意識して取り組んでおり、意識は高まっている。現在身体拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修や勉強会に参加し、参加したスタッフはミーティングなどで報告し、スタッフ間で共有しながら見過ごされることがないようにケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の相談員と連携をとりながら、必要性について見極めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の不安を早急に解決し安心した生活ができるように、相談員と協力しながらその都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、意見が気兼ねなく出せる様に配慮している。また入居者様とは日常の会話からご家族とは面会時などに意見を聞くなどしている。	意見箱を設置しているが意見が入っていることはない。自分の思いを表出できる利用者がほとんどであるため、日常の会話の中で希望や意見を聞くように心がけている。家族とは面会時や、必要な時には電話で意見を聴くなどしている。	意見箱はあまり効果をあげていない様子であるため、定期的な家族アンケートなどを実施し、忌憚のない意見を吸い上げ、運営に反映させることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、スタッフの意見を聞く機会を設けている。また管理者は、法人内のリーダー会や所属長に相談し運営に反映させている。	毎月のミーティングで意見交換がなされ、管理者は意見を吸い上げ、所属長らに伝え運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、自己評価用紙を記入し所属長と個人面談を実施している。その結果を今後の職場環境に活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、日頃の実践を振り返る機会を作っている。またミーティングでは司会と書記を当番制で行い、各自責任を持って業務を行うようにトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の相談員と連携をとりながら、必要性について見極めている。法人内グループホームと交流を図ったり、秋田市のグループホーム協議会に参加し勉強会や他施設との相互訪問を行い実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に不安にならない様に、相談員と協力しながら説明している。また、担当スタッフを置き安心して要望を話せるように環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活歴を理解しながら、家族との関係も把握する様に努めている。また家族の想いもしっかりと受け止めてサービスに結びつけている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調に合わせ、洗濯物たたみをしてもらっている。また、だまこやおはぎ等の行事食を一緒に作るなどし、信頼関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには本人と家族がゆっくり過ごせるように環境を整え、遠方の家族とは電話で話ができるようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの希望があれば友人や知人と連絡が取れるように調整している。また外出レクリエーションなどで馴染みの場所を訪れる等している。	年賀状を書く支援をしたり、外出レクリエーションで以前に暮らしていたところの近くを訪れるなど、支援に努めている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように周囲との関係に配慮しながら、さりげなく声掛けをしたり、一緒にレクリエーションや体操を行いながら寄り添い支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は、面会に行き様子を伺うなど、ご家族にも相談員と協力しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月モニタリングを実施し、本人の希望や意向を把握し、担当スタッフと協力しながらケアプランに活かしている。	気持ちを表せる方が多く、担当スタッフが丁寧な聞き取りや関わりで本人の意向や希望を聞き取っている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人から生活歴を聞きファイルにまとめている。本人の生活歴を可能な限り継続し入居者様個々のスタイルで生活が送れる様に情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内独自に作成した申し送りファイルを活用し、24時間の心身の状態の変化を分かりやすく記入して実践に活かしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月必ずカンファレンスを行い、本人の心身の状態に応じて対応ができるように、本人の要望を聞きながら介護計画を作成している。また、ご家族にも現状を報告し希望を確認している。	担当者が把握した情報をカンファレンスで確認し合い、本人本位で介護計画を作成している。介護計画は具体的な記載となっており、一人ひとりへの関わりのポイントが丁寧に書かれていることが確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個々の課題にフォーカスした記録を利用しながら朝や夕の申し送りにスタッフで相談したり、ミーティングで話し合う等して実践や介護計画に結びつけている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの訪問などで押し花や紙芝居を開催している。また外出レクリエーションにも参加してもらっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明を行い、希望に応じて病院の付き添いを行いながら対応をしている。	協力医療機関の説明を行いそちらを選ぶ方もいるが、入居前からのかかりつけ医を希望する方もいる。いずれも受診支援し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りファイルを活用して、看護師へ分かりやすく速やかに報告している。特変があった時は、看護師へ早めに報告し受診の指示をもらうよう責任を持ち対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師、相談員と連携を図り、本人だけでなく、ご家族とも十分に話し合いながら対応している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に主治医や相談員等を交えて終末期ケアについて話し合いが持たれている。	看取りまでは行わない方針で、入居時に重度化した場合や終末期についての説明をしている。法人内に心身状況に応じて対応できる機関もあるが、無い時には相談支援部門で、行き先を責任をもって紹介している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、落ち着いて対応が出来るようにミーティング等で実践訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な場面を想定した避難訓練を実施し、緊急時に備えている。また町内会長にも連絡するなどして理解、協力してもらっている。	火事想定2回(うち1回は夜間想定)、水害想定2回の定期的な避難訓練を行っている。消防署の立ち合いのもとアドバイスも受けながら実施し、非常階段を実際に利用してもらうなど、現実的な訓練をしている。前任の町内会長の声掛けで地域の理解や協力も得られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生き方を尊重した声掛けや雰囲気づくりに努め、落ち着いて暮らせる環境を目指している。	気持ちを話せる方が多いので、話をするときや利用者同士の会話の間に入るときは親しみを込めながらも礼儀をわきまえて話をするように心掛けている。職員同士でも声掛けや対応について注意しあえる関係性ができている。トイレ利用の際も本人のペースに合わせ声掛けしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた対応をし、時間がかかっても焦らせることなく、自分で納得して決める事が出来る様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた対応ができるように、その日の体調や表情に合わせた声掛けを心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に法人内の床屋を利用したり、本人の希望により髪染めを行っている。また、更衣の際は、本人の好みに合わせた服と一緒に選び季節に合わせた洋服選びをおこなっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れたり、正月などの祝日には利用者が食べたい物の希望を聞き提供している。また、本人の状態に合わせて一緒に準備を行う事もある。	法人栄養士が作る献立により朝夕は食材が納入され調理を行い、昼は弁当で納入されたものを食器に移して提供している。行事食の時には郷土食や季節のメニューなどをレクリエーションの一環として皆で作楽しんでる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食ごとに記録を行い健康状態の把握に努めている。また本人に合わせた量や形態を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に合わせて声掛けや見守りを行ない支援している。どうしても拒否が強い時はうがいを促し無理強いないように心掛けている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに添って、声掛けや見守りをおこなっている。夜間は入眠時間や排泄量を確認しながら、出来るだけ自力でトイレにいけるように見守りをしている。	できるだけ失敗しないよう、また失敗しても他者に気づかれないように支援している。夜間も自分でトイレに行く方が多いので、気配を察し必要な援助ができるようにしている。排泄パターンに即した支援で現状維持できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数・量・性状を記録して早めに変化に気づくように観察している。便秘予防には、乳製品やラジオ体操などを行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をすすめて清潔保持に努めている。個々の体調や希望にあわせて無理のないように支援をしている。	午後から夕食前の時間帯で、デイケアの無い曜日に声を掛け誘っている。希望があるときには調整し応じることもある。断られた場合には清拭や下着交換で対応し、「また今度」と機会を見て再度誘うようにしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで過ごせるようにさりげなく声掛け見守りをし、落ち着いて休めるよう、サロンリビング、2階のソファで休息できるようにしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・目的・用量・用法を個々の受診ファイルに記録している。受診時内服薬の変更があった場合は状態の変化に気をつけて観察を行う様に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課としているラジオ体操、行事食、外出レク等を提供し、メリハリある生活を心掛けながら支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティア、法人の職員と協力しながら外出レクや近隣の散歩、買い物などに出掛けている。	法人の車で自宅の方向へ外出レクリエーションに出掛け喜ばれている。外出の帰りには買い物をして来たりもする。近隣に地域の公園もあり、散歩なども行っている。家族が対応して出掛ける方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理しているが、外出レクや買い物レク時には希望の物を購入できるよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて自由に電話を使用している。また、押し花レクで作成した葉書を暑中舞いや年賀状に使用し郵送している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた壁画や置物を飾り、季節感をだしている。またトイレには消臭剤を置き、違和感なく快適に過ごせるように配慮している。	共用の空間は、換気や湿度・清潔などに配慮され居心地よく過ごせるようになっている。多くの利用者が日中は居間で過ごし、会話を楽しんでいる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンや2階にソファを置き、気軽に入居者様同士気兼ねなく過ごせるように配慮している。リビングでは思い思いに過ごせるように1人掛けのソファ等を置き雰囲気作りをしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔使用していた物や作った物、思い出の写真、などをご家族・本人と相談しながら、居心地よく過ごせるように配慮している。	家具などの持ち込みは自由であり、それぞれが写真や使っていたものを持ち込んでいる。物があることによって混乱をしてしまう方の部屋はすっきりとしている。暖房はパネルヒーターで安全に配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カンファレンスや申し送りなどで職員全員が一人ひとりの状態を把握し相談し、自立した生活が送れるよう支援している。		